

14時30分解禁

平成19年8月 全国百貨店売上高概況

平成19年9月19日

I. 概況

1. 売上高総額	5,208億円余
2. 前年同月比	1.4% (店舗数調整後/2か月ぶりプラス)
3. 調査対象百貨店	94社 278店 (平成19年7月対比±0店)
4. 総店舗面積	6,804,503㎡ (前年同月比: 0.0%)
5. 総従業員数	99,047人 (前年同月比: 11.3%)
6. 3か月移動平均値	1-3月 -0.1%、2-4月 -0.5%、3-5月 -1.1%、 4-6月 1.2%、5-7月 -0.1%、6-8月 0.4%

[参考] 平成18年8月の売上高増減率は-0.9% (店舗数調整後)

【8月売上の特徴】

2か月ぶりの前年同月比プラスとなった。

全国的に好天に恵まれた8月は気温も高めに推移した影響から、夏物商材が活発に動いた。中旬以降の猛暑で、集客や秋物商材には若干マイナスの影響が出たものの、盛夏物の最終処分やその他の各種セールが好調に推移したこと、各店のフロア・売場単位で進めてきた中小規模のリニューアルが7月までに完成したこと、などが奏効して全体の売上を押し上げる結果となった。3か月移動平均もプラス基調に回復した。

地区別には、東京をはじめとして大都市部が全体的に好調であった一方、地域経済の不振や他業態との競合が厳しい地方店・郊外店がやや苦戦している。

なお、最近の株価低迷、円安、原油・農産物価格の高騰、及び一部最終製品価格の引き上げ傾向等が、百貨店売上に与える影響は現時点では明確に現れてはいないが、不安定な政治情勢と合わせ、年末にかけて個人消費にどのような影響が出てくるかが懸念されている。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「8月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)

◇ 全国的に気温は高く、ほぼ期間を通じて太平洋高気圧に覆われ、晴れて暑い日が続き、高温が顕著だった。特に中旬には厳しい暑さが続き、各地で日最高気温が観測史上1位の値を更新した。

(2) 営業日数増減 30.7日 (前年同月比-0.1日)

(3) 土・日・祝日の合計 8日 (" ±0日)

(4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)

①増加した: 38店、②変化なし: 51店、③減少した: 55店、④不明: 49店

(5) 8月歳時記 (旧暦お盆、夏休み、夏祭り) の売上 (同上)

①増加した: 21店、②変化なし: 78店、③減少した: 12店、④不明: 82店

(6) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)

①増加する: 27店、②変化なし: 97店、③減少する: 16店、④不明: 53店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2007年08月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	520,876,001	100.0	1.4 (1.2)
10都市	332,682,516	63.9	2.6 (1.9)
札幌	14,383,619	2.8	0.2
仙台	6,979,990	1.3	1.5
東京	124,328,466	23.9	4.5
横浜	28,367,080	5.4	2.5
名古屋	29,357,885	5.6	1.8
京都	20,503,459	3.9	5.2 (-1.3)
大阪	68,323,395	13.1	1.0
神戸	14,679,434	2.8	0.2
広島	11,605,675	2.2	-1.5
福岡	14,153,513	2.7	2.0 (-4.3)
10都市以外の地区	188,193,485	36.1	-0.8 (-0.1)
北海道	4,097,494	0.8	-0.6 (-15.4)
東北	11,407,755	2.2	-3.1
関東	85,728,218	16.5	-0.1 (2.9)
中部	14,318,586	2.7	-4.2 (-7.3)
近畿	17,907,307	3.4	-0.7
中国	13,398,149	2.6	-1.0
四国	9,896,725	1.9	-1.9
九州	31,439,251	6.0	0.4

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	520,876,001	100.0	1.4 (1.2)
紳士服・洋品	27,674,196	5.3	+0.0 (-0.1)
婦人服・洋品	112,940,542	21.7	-0.1 (-0.5)
子供服・洋品	10,608,003	2.0	-2.3 (-2.1)
その他衣料品	16,167,304	3.1	-1.0 (-1.0)
衣 料 品	167,390,045	32.1	-0.3 (-0.6)
身のまわり品	67,582,263	13.0	2.8 (2.7)
化粧品	27,450,439	5.3	6.8 (6.8)
美術・宝飾・貴金属	25,933,443	5.0	-0.5 (-0.6)
その他雑貨	26,944,304	5.2	-2.6 (-3.9)
雑 貨	80,328,186	15.4	1.1 (0.6)
家 具	9,834,076	1.9	-0.8 (-1.2)
家 電	1,941,468	0.4	-1.8 (-2.0)
その他家庭用品	17,596,588	3.4	3.6 (3.3)
家 庭 用 品	29,372,132	5.6	1.7 (1.4)
生 鮮 食 品	30,695,898	5.9	1.7 (1.8)
菓 子	38,589,498	7.4	3.5 (3.4)
惣 菜	31,524,710	6.1	1.1 (0.9)
その他食料品	40,828,642	7.8	1.1 (1.3)
食 料 品	141,638,748	27.2	1.9 (1.9)
食 堂 喫 茶	19,006,506	3.6	2.2 (2.4)
サ ー ビ ス	6,108,327	1.2	4.7 (5.3)
そ の 他	9,449,794	1.8	13.2 (12.1)
商 品 券	18,751,045	3.6	-2.7 (-2.8)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | | |
|------------------|-------|---------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 2.6% | (店舗数調整後 / 2か月ぶりプラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -0.8% | (" / 2か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	2.6	1.7	2か月ぶりプラス
札幌	0.2	0.0	2か月ぶりプラス
仙台	1.5	0.0	2か月ぶりプラス
東京	4.5	1.1	2か月ぶりプラス
横浜	2.5	0.1	2か月ぶりプラス
名古屋	1.8	0.1	2か月ぶりプラス
京都	5.2	0.2	10か月連続プラス
大阪	1.0	0.1	2か月ぶりプラス
神戸	0.2	0.0	2か月ぶりプラス
広島	-1.5	0.0	2か月連続マイナス
福岡	2.0	0.1	2か月ぶりプラス
10都市以外の地区	-0.8	-0.3	2か月連続マイナス
北海道	-0.6	0.0	8か月連続マイナス*
東北	-3.1	-0.1	8か月連続マイナス*
関東	-0.1	0.0	2か月連続マイナス
中部	-4.2	-0.1	2か月連続マイナス
近畿	-0.7	0.0	2か月連続マイナス
中国	-1.0	0.0	2か月連続マイナス*
四国	-1.9	0.0	2か月連続マイナス
九州	0.4	0.0	2か月ぶりプラス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行したため(2005年までは6大都市)、連続性の観点から2007年からのトレンドとした。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、プラスは身のまわり品、雑貨、家庭用品、食料品、マイナスは衣料品。化粧品・菓子は前年比較を開始して以来8か月連続プラス。また、その他家庭用品・生鮮食品・惣菜・その他食料品がプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	1.4	—	2か月ぶりプラス
紳士服・洋品	+0.0	0.0	2か月ぶりプラス
婦人服・洋品	-0.1	0.0	2か月連続マイナス
子供服・洋品	-2.3	0.0	2か月連続マイナス
その他衣料品	-1.0	0.0	2か月連続マイナス
衣料品	-0.3	-0.1	2か月連続マイナス
身のまわり品	2.8	0.4	2か月ぶりプラス
化粧品	6.8	0.3	8か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-0.5	0.0	6か月連続マイナス*
その他雑貨	-2.6	-0.1	2か月連続マイナス
雑貨	1.1	0.2	2か月ぶりプラス
家具	-0.8	0.0	3か月ぶりマイナス
家電	-1.8	0.0	6か月連続マイナス
その他家庭用品	3.6	0.1	3か月連続プラス
家庭用品	1.7	0.1	3か月連続プラス
生鮮食品	1.7	0.1	4か月連続プラス*
菓子	3.5	0.3	8か月連続プラス*
惣菜	1.1	0.1	2か月ぶりプラス
その他食料品	1.1	0.1	2か月ぶりプラス
食料品	1.9	0.5	2か月ぶりプラス
食堂喫茶	2.2	0.1	2か月ぶりプラス
サービス	4.7	0.1	18か月連続プラス
その他	13.2	0.2	2か月連続プラス
商品券	-2.7	-0.1	2か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品についての推移は2006年1月から細分化したため、2007年の8か月のみの推移

NEWS LETTER

平成19年8月 東京地区百貨店売上高概況

平成19年9月19日

I. 概況

1. 売上高総額	1,243億円余
2. 前年同月比	4.5% (2か月ぶりプラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭5.3% (86.1%) : 非店頭-0.1% (13.9%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 28店 (平成19年7月対比±0社0店)
5. 総売場面積	961,118㎡ (前年同月比: 1.4%)
6. 総従業員数	18,569人 (前年同月比: 6.8%)
7. 3か月移動平均値	1-3月 -0.9%、2-4月 -1.5%、3-5月 -1.1%、 4-6月 2.2%、5-7月 1.1%、6-8月 2.1%

[参考] 平成18年8月の売上高増減率は-1.6% (店舗数調整後)

【8月売上の特徴】

- (1) 記録的な猛暑の影響で実需対応型のジャストシーズン商材が好調に推移し、衣料品分野では水着等の盛夏物に加えて「秋色夏素材」と呼ばれる一連のアイテムが健闘した。
- (2) 同様の理由からUV関連需要が盛り上がり、UV対応化粧品、日傘、帽子、サングラス等が活発に動いた。
- (3) 高級輸入時計は、複数の店舗で「ワールド・ウォッチ・フェア」を開催したことなどから、引き続き伸びを見せている。
- (4) 旧暦お盆に合わせて、帰省土産としての食品ギフトの需要が高かった。
- (5) 最近の注目アイテムとしては、衣料品分野の「ライダーズ・ジャケット」、婦人靴分野の「ブーティ(ショートブーツ)」、食料品分野の「シャンパン」に流行の兆しがある。
- (6) 円安傾向や政府の外国人観光客誘致施策などを背景に、今年のサマーセール期は、特に東アジア系旅行者の来店数が増加傾向を見せた。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.9日 (前年同月比±0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
 - ①増加した: 4店、②変化なし: 9店、③減少した: 6店、④不明: 3店
- (3) 8月歳時記(旧暦お盆、夏休み、夏祭り)の売上(同上)
 - ①増加した: 1店、②変化なし: 7店、③減少した: 0店、④不明: 14店
- (4) 翌月売上見通し(回答店舗数で見る傾向値)
 - ①増加する: 3店、②変化なし: 14店、③減少する: 1店、④不明: 4店

東京地区百貨店 売上高速報 2007年08月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	124,328,466	100.0	4.5
紳士服・洋品	7,947,129	6.4	6.2
婦人服・洋品	26,110,904	21.0	4.2
子供服・洋品	1,747,102	1.4	-0.9
その他衣料品	3,370,039	2.7	0.1
衣 料 品	39,175,174	31.5	4.0
身のまわり品	18,006,783	14.5	11.2
化粧品	6,991,912	5.6	10.9
美術・宝飾・貴金属	7,575,889	6.1	-4.2
その他雑貨	7,911,299	6.4	0.3
雑 貨	22,479,100	18.1	1.7
家具	2,645,889	2.1	-1.4
家電	651,896	0.5	19.8
その他家庭用品	4,945,904	4.0	7.1
家 庭 用 品	8,243,689	6.6	5.0
生 鮮 食 品	4,350,224	3.5	2.8
菓 子	8,379,469	6.7	8.5
惣 菜	6,834,301	5.5	1.1
その他食料品	8,755,168	7.0	4.2
食 料 品	28,319,162	22.8	4.4
食 堂 喫 茶	3,991,393	3.2	0.7
サ ー ビ ス	1,750,703	1.4	15.7
そ の 他	2,362,462	1.9	-6.9

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

○本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商品券	3,237,502 千円	0.7
従業員数	18,569 人	6.8
売場面積	961,118 m ²	1.4

営業日数	30.9 日	前年	30.9 日
------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、衣料品、身のまわり品、家庭用品、食料品のすべてがプラス。子供服洋品、美術・宝飾・貴金属、家具はマイナスした。なお、化粧品・菓子は8か月連続、生鮮食品は4か月連続プラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	4.5	—	2か月ぶりプラス
紳士服・洋品	6.2	0.4	2か月ぶりプラス
婦人服・洋品	4.2	0.9	2か月ぶりプラス
子供服・洋品	-0.9	0.0	2か月連続マイナス
その他衣料品	0.1	0.0	2か月ぶりプラス
衣料品	4.0	1.3	2か月ぶりプラス
身のまわり品	11.2	1.5	4か月連続プラス
化粧品	10.9	0.6	8か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-4.2	-0.3	8か月連続マイナス*
その他雑貨	0.3	0.0	2か月ぶりプラス
雑貨	1.7	0.3	2か月ぶりプラス
家具	-1.4	0.0	4か月連続マイナス
家電	19.8	0.1	6か月ぶりプラス
その他家庭用品	7.1	0.3	2か月連続プラス
家庭用品	5.0	0.3	2か月連続プラス
生鮮食品	2.8	0.1	4か月連続プラス*
菓子	8.5	0.6	8か月連続プラス*
惣菜	1.1	0.1	2か月ぶりプラス
その他食料品	4.2	0.3	2か月ぶりプラス
食料品	4.4	1.0	2か月ぶりプラス
食堂喫茶	0.7	0.0	2か月ぶりプラス
サービス	15.7	0.2	16か月連続プラス
その他	-6.9	-0.1	10か月連続マイナス
商品券	0.7	0.0	2か月ぶりプラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品についての推移は2006年1月から細分化したため、2007年の8か月のみの推移

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>